



九州支部「第20回九州支部佐賀大会」報告

第20回日本生物工学会九州支部佐賀大会が2013年12月7日（土）に佐賀大学本庄キャンパスにて開催されました。参加者数は、過去5年でもっとも多い195名（一般91名、学生104名）、講演数は76題（一般講演は61題、学生賞講演は15題）となり、一般講演は午前の部と午後の部での3会場、学生賞も午前の部、午後の部を1会場で行いました。どの会場も熱心な質疑討論が行われました。昼の休憩時間には支部評議員会が開催され、九州支部の諸先生方には短時間での会場移動をお願いすることになりご迷惑をおかけしました。また、お忙しい中、座長ならびに学生賞審査をご担当いただいた諸先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

13時20分からの今大会の目玉として開催した第4回生物工学産学技術研究会にも110名を超す参加者があり、関東、関西からの参加もありました。アカデミアの若手研究者や学生を対象に産業界のものづくりの実用化・商品化技術を紹介する研究会で、「食酢の醸造法と課題」「バイオプロセス工学の立場から見た発酵工業の変遷」「むぎ焼酎いいちこの発想と技術」と題して、マルカン酢の佐古田久雄先生、味の素の小山洋介先生、三和酒類の下田雅彦先生にご講演いただきました。産業界から見た生きた生物工学についての話はとても魅力的で、学生にとって印象深いものであったようです。参加された皆様からとてもよい企画でしたとの声をいただき、うれしく思いました。演者の先生方、生物工学産学技術研究会との共催にご尽力いただきました産学連携委員会委員長の倉橋 修先生ならびに松井和彦先生、事務局の方々、九州支部長の安部淳一先生をはじめ役員の方々に深く感謝いたします。

17時45分から、佐賀大学かさざぎホールにてミキサーを行いました。例年よりも遅い時間からのミキサーでしたが、約90名の参加者があり学生もたくさん参加していました。光富勝実行委員長の挨拶に続き、倉橋産学連携委員長のご挨拶、佐賀大学農学部渡邊啓一学部長による祝辞、続いて安部支部長の乾杯のご発声とともに、佐賀県の条例である「日本酒で乾杯」を佐賀大学のお酒「悠々知酔」で行いました。佐賀のお魚や、寒い時期でしたのでおでんを準備して、佐賀の地酒とともに楽しんでいただきました。美味しいお酒をいただきながら、まさに若手研究者・技術者・学生も交えた産学連携ミキサーで交流が深められました。またミキサーの中で、学生表彰が行われました。本年度の受賞者は5名で、博士の部は、森裕太郎さん（九大院・工）「新規ジオチン化試薬を用いた酵素集合体の形態制御と機能化」、Jayakody Lahiruさん（佐大院・農）「Engineering of a yeast strain tolerant to fermentation inhibitors derived from lignocellulose」の2名、修士の部は、緒方詩保さん（九大院・農）「リーダー配列を伴わない乳酸菌バクテリオシンの新規生合成機構の解明」、高杉優作さん（九大院・工）「セルロース系バイオマス高効率分解生体触媒プロセスの開発」、富永陽大さん（九大院・農）「分裂酵母のアルカリストレス応答に関わるCOMTホモログ遺伝子の発現解析」の3名でした。審査委員長の安部支部長の講評後、各受賞者への賞状と記念品の贈呈が行われ、受賞者本人から一言ずつコメントと今後の抱負を述べてもらいました。最後に、酒井謙二副支部長の締めにより、ミキサーを終了しました。限られた時間の中でもご参加の皆様と懇談の時間を持てたことを嬉しく思っております。

2014年度は12月6日に、熊本大学 森村 茂先生を中心に熊本での開催を予定しております。多くの皆様のご参加を期待しております。
(関 清彦)



第4回生物工学産学技術研究会の様子



学生賞受賞者の面々

